

# へ の こ 辺野古へ カヌーを 送ろう!贈ろう!

## 辺野古の海を守るために、みなさんの力を貸してください!

辺野古には、ジュゴンの棲む美しい海があります。日本政府は、この海に米軍の基地を造ろうとしているのです。ふるさとのため、未来のため、子どもたちのため、自然を守るため、生きとし生けるもののため、沖縄のおじやおばあちから若者まで、市民が命がけで闘っています。

### なぜカヌーが必要なの? ~辺野古の基地建設反対運動について~

日本にある米軍専用基地の約75%が沖縄(国土の0.6%)に集中し、沖縄本島の約2割が米軍基地に占拠されています。

住宅地域への米軍機墜落や被弾事件、米兵によるレイプ、暴行、爆音被害、自然破壊など、沖縄の人々は60年あまり米軍基地の存在に苦しめられ続けています。

1995年、米兵による少女暴行事件が発生すると、沖縄の人たちの長年に渡って積み重なってきた怒りが爆発。

県民総決起大会には8万5000人もの人たちが結集しました。しかし、この怒りを利用した日米両政府は、「普天間基地全面返還案」の代替として「沖縄本島東海岸沖」に基地を建設すると発表しました。

しかし普天間基地の負担軽減は、辺野古に新しく基地を作るための口実でしかありません。

沖縄本島北部の東海岸沖は、絶滅危機にあるジュゴンの棲む海です。

辺野古の海域にはジュゴンの餌となる海草藻場が広がっており、大浦湾にはサンゴやクマノミなど、多様な生物が生きています。

1997年、名護市民投票が行われ基地建設に対して「反対」が上回りましたが、政府はその市民の意思を無視して計画を進めていきました。

その年、辺野古の人たちは「命を守る会」を結成し、辺野古の海に基地を作らせないための座り込みをはじめました。

それから6年以上が経つ中、政府は2003年4月、基地建設の事前調査を強行。

2004年には作業ヤードを造ろうとしましたが、集まった人たちはこれを押し返しました。

那覇防衛施設局が来るたびに人々は話し合い、説得を試み、完全非暴力による座り込みによって着工を阻止してきました。しかしとうとう施設局は米軍基地キャンプシュワブの浜から出航し、辺野古海上で作業を開始。この日からカヌーや船による、命がけの阻止行動がはじまったのです。

よろしく  
お願いします